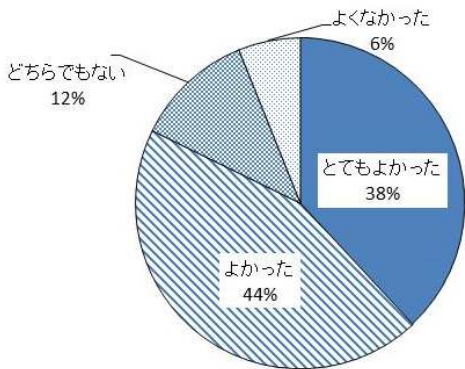


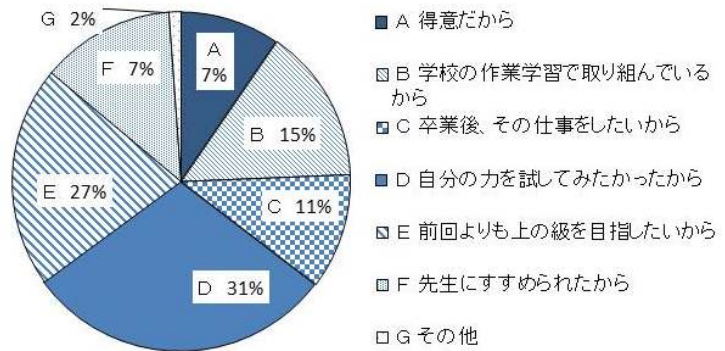
第6回愛顔のえひめ特別支援学校技能検定アンケート結果

(1) 受検者

① 「受検してどうでしたか」



② 「その種目を受検しようと思った理由」

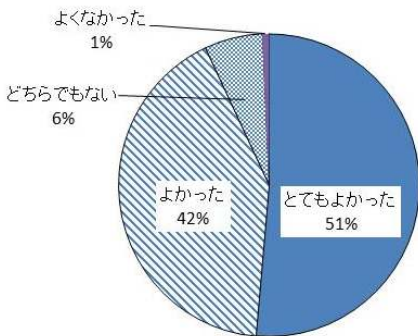


③ 感想（自由記述）

- 始めはとても緊張したが、心を落ち着かせて精一杯取り組めたことがうれしかった。
- 今までは、水の入ったコップをお盆にのせて運ぶことが難しかったが、できるようになった。親にも自分ができることを示せてうれしかった。
- 終了報告をした後、仕事をやり終えていないことに気付いた。緊張はしてなかったのに、ミスをしてしまい悔しい。しかし、1年生から受検し続けてよかった。1級認定が欲しかったが、1級と同じ価値の経験と自信ができた。検定で自分自身が成長したと実感できた。
- 学校で学んだことを生かして社会人でも頑張りたい。

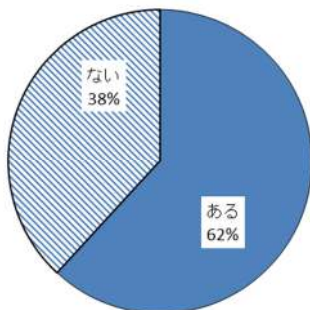
(2) 保護者

① 「子どもさんを受検させてどうでしたか」（自由記述）



- 前向きに頑張ろうとする気持ちが強く感じられるようになった。
- 周りに対する関心が高まり、今後大人になっていく段階で必要な人との関わりやマナーを学んでいくよい体験となっている。
- 何事に対しても、一生懸命取り組んでその結果と向き合うことは、これから生活していく上で大切なことだと思う。よい経験になっている。
- パソコンで文章を作成することができることを知ることができた。この検定がなかったら、自分は苦手だからと取り組まなかったと思う。
- 練習の中で、集中力や努力をすることなどが身に付いた。また、どのようなところに気を付ければよいか、自分で考えて行うようになった。

② 「子どもさんの様子で受検前と後とで変わったことがありますか。」（自由記述）



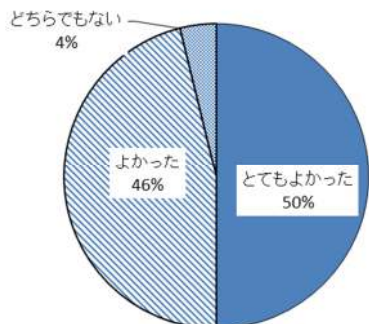
- 外食した時に、お店の店員さんの様子をよく観察するようになった。
- 自分のできていないところを自覚している。以前ならば、悔しがらただけで、「どうせ自分にはできない」と思い込むところがあった。
- 「次回は頑張りたい。挑戦してみたい」という意欲が出てきた。
- 何事も努力すればできると自信が持てるようになった。
- 自宅の部屋の掃除をきれいにするようになり、自分が学んだことを生かしている。
- 日常の中で、自分はどうすべきかを考えて行動することが多くなった。

③ 「今後、技能検定に期待することは、どんなことですか」（自由記述）

- 検定の種類を増やして、いろいろな分野に挑戦する機会を作ってほしい。
- 自分の得意分野を知る機会として、継続・レベルアップを期待する。
- 学校内で定期的にミニ検定のような場を設けてほしい。県検定に向けて少しずつレベルアップが実感できるような形がいい。
- 就職に結びつくような企業との連携を図ってほしい。

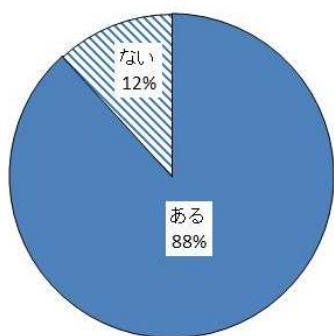
(3) 教員

①「生徒を受検させてどうでしたか」(自由記述)



○生徒同士で協力して取り組む姿が見られ、互いに高め合う経験ができた。
○情報サービス部門で新しい種目「文書作成」が始まり、それに向けて改めて気持ちを高め、チャレンジした生徒の様子から、「向上心」や「努力」など、技術以外にも大切なことを学べたように感じる。
○消極的な生徒が、次回に向けての意欲を語るなど様々な変化が見られる。
○接客におけるマナー、言葉遣いなど考えて行動することができた。
○終わった後に、生徒が達成感を味わっていたのでよかった。
○自分でなんかしようという自主性が見られるようになった。

②「生徒の様子で受検前と後とで変わったことがありますか。」(自由記述)



○自ら課題を見つけて取り組む姿勢が見られるようになった。
○苦手な課題を見つめて克服しようと前向きな姿勢が見られた。
○時間を意識して、てきばきと動く姿が見られるようになった。
○清掃に対する意欲や自信がついて、日常的な清掃場面においても、さっと手伝う生徒が増えた。
○自信をもって活動するようになり、コミュニケーション能力も向上した。
○検定で学んだことを進路に生かしたいという意識をもつ生徒が増えた。
○清掃用具の持ち方や手洗いの仕方等を日常でも気を付けるようになった。
○目的意識をもって作業学習に取り組んでいる。

③「教員として、技能検定に取り組むことで変わったことはありますか。」(自由記述)

○指導するにあたって、自分の技術や指導力が不足しているところを自覚した。
○地区検定で審査員を務めたことで、企業の方の目線や一つ一つの動作の意味を学ぶことができた。これまで「形の理解」しかできていなかったことが分かった。
○やれることを一つ一つ増やしていく中で、生徒は仲間と成長していくと実感している。
○生徒の笑顔や自信に満ちた表情を見たいので、指導する側として細部まで突き詰めたい。
○「できない」と決めつけず、生徒の可能性を信じることの大切さを改めて感じた。
○分かりやすい教え方について、考える機会となった。
○教員の指導力の向上が追い付いていない場合があり、校内研修の必要性を感じている。
○生徒の頑張りや、教員のモチベーションを高めてくれた。
○清掃サービス部門の受検者でありながら、廊下のゴミを拾えない、接客サービス部門に取り組んでいるながら、日常生活で挨拶ができないという生徒がいることに対して危機感をもち、技能検定への取組を通じて、生徒の社会性を醸成したい。これは1級を目指すことと同様に位置づけたい。

④「今後、技能検定に期待することはどんなことですか。」(自由記述)

○検定の意義を一つでも多くの企業に理解してもらい、就労につながればよい。
○資格として、社会に通用するものになるとよい。
○日頃の生活で、検定で学んでいることを具体的に生かしていけるような取組の工夫が大切。
○技能検定に取り組む意義が就労に結びつくことにのみになり、結びつかなければ意味がないと考える保護者や教員が増えることは本来の趣旨とは離れている。教育のためであることを再確認したい。
○地区検定に関して、企業審査員をそれぞれの地域の企業から派遣してもらってはどうか。地元企業の方に「参観」ではなく「参加」していただくことで、生徒のよさや課題を実感していただける。
○新種目として「事務総合」を立ち上げ、電話対応、伝票整理(入力業務)、封筒詰め、郵便物仕分け等の力を企業にアピールできないか検討してほしい。
○ホテルの客室清掃を業務とする仕事に就職をする生徒もいるので、そのような内容を取り入れてほしい。